

# 都市再生整備計画 事後評価シート

旭川都心地区(2期)

( 原 案 )

令和元年11月

北海道旭川市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道	市町村名	旭川市	地区名	旭川都心地区(2期)			面積	412ha				
交付期間	平成27年度～令和元年度	事後評価実施時期	令和元年度	交付対象事業費	895百万円	国費率	40%						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
	基幹事業		・道路(14・15丁目間横通線(車道))・公園(宮前公園, 常磐公園)・地域生活基盤施設(シビックコア広場, 案内板)・高質空間形成施設(沿道植栽, 14・15丁目間横通線(歩道), キャノピー)										
	提案事業		・地域創造支援事業(総合こども教育センター, オープンカフェ事業, 共通利用駐車場推進事業, まちゼミ開催事業, 道の駅整備事業), まちづくり活動推進事業(賑わいづくり事業)										
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	基幹事業		・地域生活基盤施設(市民文化会館改修) ・高次都市施設(市民文化会館改修) ・高質空間形成施設(2・3条間仲通線, 3条通線)		・新市庁舎建設に伴い文化会館の整備の方向性について建替えを含めた再検討を行うことになったため中止 ・沿線地権者の合意が得られず中止		影響なし						
	提案事業		・地域創造支援事業(高架下運営エリア)		・想定した機能が, 周辺土地利用状況から他の土地で代替可能であったことから中止		影響なし						
新たに追加した事業		基幹事業		・高質空間形成施設(宮下・1条間仲通線)		・2・3条間仲通線から箇所変更により追加		影響なし					
提案事業		・事業活用調査(常磐公園周辺利活用促進調査)		・常磐公園のさらなる利便性向上を目的として追加		影響なし							
交付期間の変更		当初	平成27年度～令和元年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
変更		なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	買物公園通行量	人	117,591	H26	120,000	R1	102,585	108,160	△	あり なし ●	旭川西武閉店などにより通行量は大きく減少したが、再開発事業や地域住民によるソフト事業の動きもあり、徐々にではあるが通行量に回復基調も見られる。整備方針に基づいた事業を進めることで、安心して生活できる都市機能や、賑わいある魅力的な都心空間の創出につながり、目標値を達成することができた。目標達成はできなかったが、文化会館周辺に設置されている、文化芸術ゾーンとも連動し、事業によるソフト事業も合わせ一定の効果はあった。	-
	指標2	都市部居住人口	人	15,946	H26	16,200	R1	16,160	16,212	○	あり なし -	-	
	指標3	旭川市民文化会館利用者数	人	248,399	H25	270,000	R1	258,603	268,836	△	あり なし ●	令和2年10月	
	指標4										あり なし		
指標5										あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	歩行者通行量(イオンモール前)	人	8,150	H29		9,045				本事業や新たな集客施設の効果により、落ち込んでいた数値が徐々に回復基調にある。	-	
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況						今後の対応方針等			
	モニタリング	買物公園通行量調査等によるモニタリング		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						庁内各部資料を用いることで指標の確認を行い事業効果の検証を行う。 今後市民目線で事業を評価し、賑わいある都心部の形成を目指す。			
	住民参加プロセス	中心市街地活性化に係わる講演会等を開催し、都市再生整備計画とも係わるまちなかでの様々な取組の説明を行い、市民に対し紹介することができた。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						今後中心市街地でのまちなかの活性化に係わる取組について周知PRを図っていく。			
持続的なまちづくり体制の構築	・北彩都ガーデンサポーター(市民ボランティア)活動の実施 ・中心市街地活性化協議会企画推進分科会によるまちづくり活動の実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						今後サポーターや地域住民をはじめとする市民が楽しみや魅力を感じながら活動していけるよう、必要な支援を行っていく。				

## 様式2-2 地区の概要

旭川都心地区(2期)(北海道旭川市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
<b>【大目標】</b> 道北の拠点都市として、活力ある都心空間を創造する。 目標1: 安心して子育てや生活ができる都市機能の整備(都市機能向上) 目標2: 市民や観光客が交流し、賑わいある都心空間の整備(地域経済発展) 目標3: 魅力ある高質な都心空間の形成(魅力づくり) 目標4: 都市部の交通便利と都市内回遊性の向上(交通便利向上)	買物公園通行量	単位: 人	117,591 H26	120,000 R1	108,160 R1
	都心部居住人口	単位: 人	15,946 H26	16,200 R1	16,212 R1
	旭川市民文化会館利用者数	単位: 人	248,399 H25	270,000 R1	268,836 H30



**まちの課題の変化**

- ・宮前公園やシビックコア広場の整備により、観光客や地域住民が憩うことのできる魅力的な空間が形成された。
- ・キャンピ―整備や歩道のバリアフリー化、ロードヒーティング整備等を行うことにより、都心部の交通便利性と回遊性の向上に繋がった。
- ・観光客の交流拠点となる道の駅整備や、まちなかにおいてまちゼミやガーデンボランティア等のソフト事業を実施したことにより、人が集う賑わいある都心部の形成につながった。今後はさらに賑わいある都心部とするために地域住民が主体となって展開するソフト事業の発展等が必要。
- ・子ども総合相談センターを整備したことで、子育て支援部と教育委員会の相談窓口が統合され、就学前から就学後までの一貫した相談支援体制が構築された。また、プレイルームや地域活動支援スペース整備により市民の交流環境が増強された。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

- ・都心部のシンボリックなエリアや北彩都地区に整備した施設を活かして、さらに多くの観光客が来街し、居住者が増加するように、このエリアが魅力ある高質な都心空間であることを積極的にPRしていく。
- ・さらに都市部の交通便利性と回遊性の向上を図るため、引き続き道路などのバリアフリー化等の整備を検討する。
- ・都心部の居住者を増加させ活力ある都心部を形成するため、住民が安心して子育てや生活ができるよう、整備した施設等を有効活用していく。
- ・市だけではなく地域や民間団体が主催するイベント等が増加するような支援等の検討や、空き店舗出店等の際の支援等を行い、さらに賑わいある都心部を形成する。

## 事後評価手続き 今後の予定

	令和元年						令和2年											
	11月 10 20 30			12月 10 20 31			1月 10 20 31			2月 10 20 29			3月 10 20 31			10月 10 20 31		
事後評価(原案)の公表 (旭川市HPによる公表)	 11/1~12/1																	
「都市再生整備計画事業評価懇談会」の開催	 11/20(予定)																	
事後評価結果の国への提出				 12月下旬														
事後評価結果(最終)の公表													 3月下旬					
フォローアップの実施																 10月中旬		